

# 留学生と創る！伝統と革新・日本酒文化読本 (アントレプレナー)

## 1 目的・概要

本科目は、留学生と共に日本酒、日本文化、アントレプレナーシップについて探求し、読本制作やプレゼンテーションに取り組むプロジェクトです。

日本人によって受け継がれてきた伝統文化が担い手不足や時代の変化に伴い、姿を消しつつあります。そこで私たちは、本科目を通じて伝統文化に携わる方たちの想いを守りながら、現代の様相に合う新しい文化の広め方を模索し、国内外問わず多くの人々に受け入れられるような文化の継承に貢献することを目標として様々な取り組みを行ってきました。プロジェクトを通して、日本酒

造りに携わって来られた方々や、日本酒業界に革新を起こすべく奮起されている方々の想いに触れ、日本酒の過去と未来について深く考えながら読本制作に臨みました。そして、留学生を授業に巻き込むなどして読本を制作し、イベントを開催したことにより、国際的な視点から日本文化を捉え、より多くの人々に日本酒の魅力を伝えることができました。



### Annual Schedule

2024年	4月	チームビルディング・役割分担
	5月	ゲストスピーカー3名による講義
	6月	月桂冠株式会社取材・桂冠大倉記念館訪問・ 株式会社増田徳兵衛商店訪問・株式会社リーフ・ パブリケーションズ取材
	7月	春学期成果報告会
	8月	留学生アンケート
	9月	株式会社増田徳兵衛商店清掃ボランティア・ 合同会社SAKEX取材・株式会社Clear取材・京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室取材・京都市観光協会取材・株式会社山本家取材・文化庁取材・SCENTMATIC株式会社取材・玉乃光酒造株式会社取材
	10月	読本作成開始・松井酒造株式会社取材
	11月	留学生アンケート・留学生を対象とした日本酒イベント
	12月	京都市文化芸術都市推進室文化芸術企画課の覚前様、京都知恵産業創造の森の稲垣様へ提言及び成果報告
2025年	1月	読本制作完了・秋学期成果報告会



## 2 成果達成度

本科目の成果として主に3つ挙げられます。

まず1つ目に、多くの取材先にご協力いただき、文化の担い手である方々の想いを読本という形で発信できたことです。取材は本科目のテーマである「京都の伝統文化の革新的継承」に沿い、メンバーが積極的にアポを取りながら行いました。古くから日本酒造りをされてきた酒蔵、日本酒業界において革新的な取り組みをされている企業、行政など幅広い分野の方々などの想いを聞きました。また取材に行く前段階では、国際的な視点を読本に落とし込むため、留学生を対象としたアンケートを実施しました。さらに、留学生に授業に参加してもらうことで、より読者を意識した読本作成ができるよう工夫を凝らしました。これらのことを通して、集大成として読本が制作できたことは、私たちにとっての大きな成果であると考えています。



2つ目に、留学生を対象としたイベントを開催し、日本酒が持つ新たな魅力を発見することを促し、その価値への共感者を増やすことができた点です。イベントでは、留学生に日本酒についての知見を深めてもらった上で、ペアリングや異なる種類の日本酒を混ぜ合わせ、自分好みの日本酒を作ることなどを通して日本酒の伝統的な側面と革新的な側面を伝えました。イベント後には、満足度に関するアンケートを実施し、5段階評価中4.8という高評価をいただくことができました。



3つ目は、行政機関に向けてこれからの京都の伝統文化の在り方を提示することができた点です。京都市文化芸術企画課の覚前様と京都知恵産業創造の森の稲垣様をお招きし、4月から行ってきた活動報告と、活動を通して得た気づきをもとに私たちなりの視点から提言を行いました。提言では「文化とカルチャープレナーを普及するためには」と「京都からアントレプレナーシップをもった学生・若者を増やすには」という2つの観点からプレゼンを行いました。フィードバックでは、文化

をどのように残すか、どのように文化に興味を持たせるかなどの観点から、私たちが学生という立場でできることについてご助言いただきました。

# 3 プロジェクトを通じて

本科目を通して感じたことが2つ挙げられます。まず1つ目に、私たちの目的である「国内外問わず、より多くの人々に受け入れられるような文化の継承に貢献すること」を踏まえながら文化の継承者の方々の想いを発信することの難しさです。学生という立場から、授業内の限られた時間の中で、想いをどのように読本という形で伝えていけばよいかという点に悩みました。また、読本を作成する過程で、多くの取材先から得た情報を整理し、どのように伝えるかを定めることは重要であり、困難だと感じる部分でした。取材した内容を留学生にとって、理解しやすく、かつ具体的な有益な内容に上げることが求められました。そして技術的な内容や専門的な言葉をどう簡潔かつ効果的に伝えるか、また読者層である留学生に適した日本語表現をどう選定するかが課題となりました。そのような中で、取材先の方々の文化への想いを聞き出せるよう事前準備を丁寧に行いながら取材に臨み、読本の校正段階では、多くのご助言をいただきました。また、留学生と共に読本の校閲を行い、留学生の意見を反映させた読本制作を意識しました。



2つ目は、チームの意見調整や役割分担の難しさ、チームで取り組む意義を感じたことです。本プロジェクトでは、受講人数が11人と多く、全員の意見をまとめ、方向性を定めるという点において困難を感じることもありました。1年間の方向性を決める目的文作成の段階では、活動の核となるものを作るという点から、時間を惜しまず作成に取り組みました。また活動では取材、イベント、留学生とのやり取り、プレゼン、読本作成などのタスクがあり、時間とリソースに制約がある中で1人1人が主体的に取り組む必要がありました。一部の学生に負担が集中し、各々のタスクが不平等であるまま進んだり、モチベーションの低下により進行が遅れたりする可能性があったため、役割分担の明確化や定期的な進捗共有をすることでこれらの問題に向き合いました。



## 編集後記

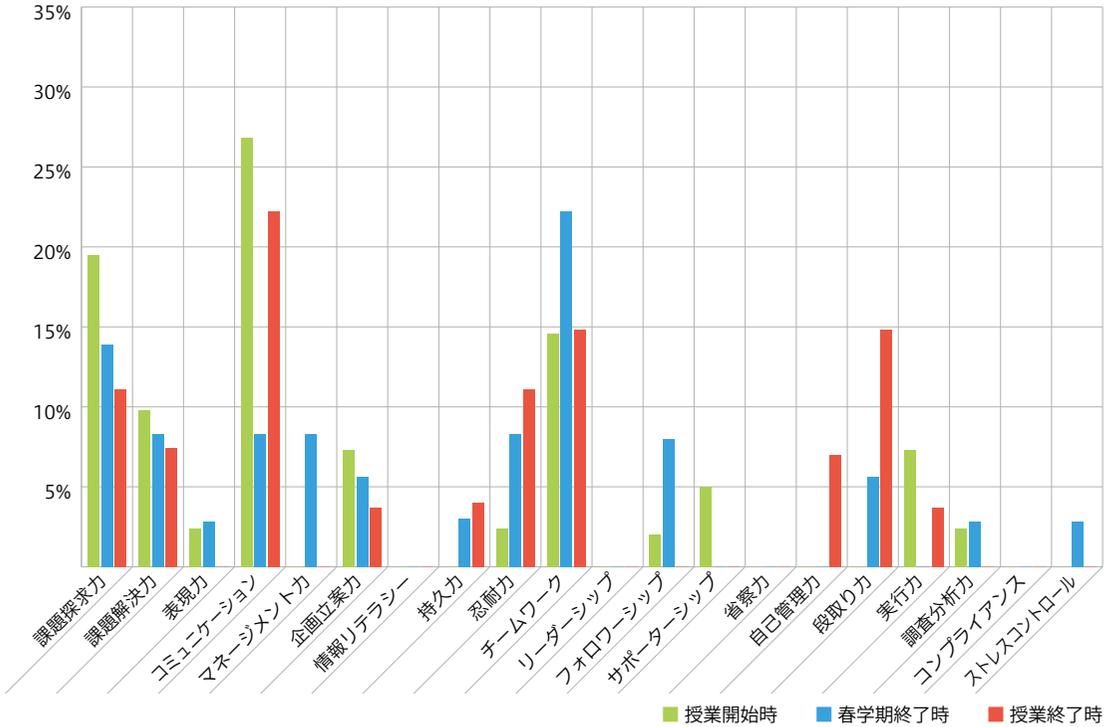
本プロジェクトで、多くの素晴らしい出会いがあり、価値ある学びを得ることができました。そして、1年間を通して日本文化に触れ、仲間と共に一つの目標に向かって努力をすることはかけがいのない経験となりました。突然のお願いにも関わらず、日本酒や日本文化への熱い想いを惜しみなく語ってくださった取材先の皆様、プロジェクト科目を担当してくださった遠藤正彦さん、徐潤純先生、高岸雅子先生、SAの安藤海伽さん、プリントステーション、プロジェクト科目事務局の皆様の多大なるサポートのおかげです。学生一同、心より御礼申し上げます。

## プロジェクトメンバー

大倉 利奈(神4) 岡田 唯花(文4) 下屋敷 雪乃(文4) 林 江茉(文2) 宮下 響(経済3) 石田 諭基(経済2)  
中村 太一(商4) 竹内 敬雄(商4) 池松 心晴(商2) 細井 菜津(政策3) 河方 千紗(政策3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

